

154回：花のお江戸を歩く会

江戸の地名と坂道が交差する散歩道

「市ヶ谷亀岡八幡宮～河田町～新大久保コリアンタウン」

《散歩道のご案内》

徳川家康の軍事戦略を見ていると、江戸城～番町・半蔵門～牛込見附・市ヶ谷見附の後背地に特段の注意を払っていることがわかる。そのため、最初の後背地にあたる現在の新宿区境界に軍事的施設が集中している。百人町（鉄砲組百人隊が由来）、二十騎町、などである。

江戸が攻められるとすれば長野県・群馬県の山間部方向（四柱推命の玄武）からと家康は考えていたようだ。今日そんなことを意識しながら、お江戸ミニタリーシティ新宿を歩いてみたい。

23区の中でも江戸時代の地名や坂名が一番多く残されているこの地は、その由来などを考えながら歩くといっそう楽しい散歩になるでしょう。最後は今一番ホットなコリアンタウンで江戸を忘れて遊びましょう！

《散歩道の順路》

JR市ヶ谷駅>市ヶ谷見附>市ヶ谷亀岡八幡宮>佐内坂>長延寺坂>浄瑠璃寺坂>浄瑠璃寺の仇討ち跡>鼠坂>中根坂>近藤勇・試衛館跡>焼餅坂>経王寺>常楽寺>法身寺>幸国寺>月桂寺>フジテレビ跡>念仏坂>安養寺>安養寺坂>長井荷風旧居跡>台町坂>西迎寺>全勝寺>新坂>善慶寺>成女学園＝小泉八雲旧居跡>自証院>禿坂>西向天神>抜弁天>大久保の犬御用屋敷>島崎藤村の旧居跡>鬼王稲荷>小泉八雲終焉の地>コリアンタウン>皆中稲荷神社>JR新大久保

《個別ガイド》

① 市ヶ谷見附

市ヶ谷見附は、寛永13年（1636）、津山藩主森長継公の普請によるものであった。場所はJR市ヶ谷駅前の神田川を越えたあたり。藩祖森忠政公から代替わりした6年目の春である。この市ヶ谷の御門は枳形で、一つの門（高麗門）をくぐると、90度直角に曲り、もう一つの門（櫓門）をくぐるという形。現存する江戸城の遺構で言えば桜田門や大手門がその形で、多くの城の城門に見られる形である。市ヶ谷見附は明治4年（1871）に道路拡張に伴い撤去されたが、今も「市ヶ谷見附交番」があり、かろうじて地名が残る。

また、この市ヶ谷門には面白い特徴の石があった。それは「烏帽子石」と呼ばれるもので、明治の撤去時に日比谷公園に移設されて、現在に至る。

市谷の由来は幾つかあるが物売りの市が立ったので市売りとか、一番目の谷であったのでこの名が付いたなど

②市ヶ谷亀岡八幡宮

市谷亀岡八幡宮は、江戸城を築いた太田道灌（おおたどうかん）が市谷御門（現在の千代田区）に文明 11（1479）年、江戸城西方の守護神として鎌倉の鶴岡八幡宮の分霊をおまつりしたことが始まりです。名前の由来の「亀岡」は、「鶴」に対して「亀岡」と称されました。

その後、寛永 13（1636）年頃に江戸城の外堀が完成したことを機に、茶ノ木稻荷神社内へ遷座しました。以降、江戸幕府の信仰も厚く、5代将軍綱吉の母・桂昌院（けいしょういん）や老中柳沢吉保（やなぎさわよしやす）が寄進や参詣し、社頭がたいへん賑わったと伝えられています。→茶ノ木稻荷→佐内坂→長泰禅寺→常火消屋敷跡→長延寺坂→浄瑠璃寺坂

③浄瑠璃寺の仇討ち跡

新宿区市谷砂土原町の浄瑠璃坂は、伊賀越の仇討ち・赤穂浪士の討ち入りに並ぶ江戸三大仇討ちとして評判となった浄瑠璃坂の仇討ちのあった場所で、坂の上には説明書きがある… 1668(寛文 8)年に下野の興禅寺で、宇都宮前藩主・奥平忠昌の法要がおこなわれた時、文治派の奥平内蔵允（黒屋家）が度重なる侮辱に耐えかねて、武断派の奥平隼人（中金家）に刃傷に及んだものの、文治派・内蔵允は逆の大怪我をしたという。

藩主・奥平昌能は、奥平隼人には改易、奥平内蔵允の嫡子・源八(12歳)と内蔵允の従弟・伝蔵正長には家禄没収の上、追放を申し渡したので、隼人ら親子は江戸の旗本・大久保助右衛門の屋敷に身を寄せたそう。この処分に不満の源八らは仇討を決意し、寛文 9（1669）年 7 月 3 日に隼人の実弟・奥平主馬允を出羽上之山で待ち伏せして討ち取ったものの、隼人は市ヶ谷浄瑠璃坂の鷹匠頭・戸田七之助の屋敷に隠れていたという… さらに寛文 12(1672)年 2 月 3 日未明に、源八ら 42 名は火事装束に身を包み、戸田七之助の屋敷へ討ち入り十数人を斬り、隼人の父・半斎を討ち果たし、源八らが引き上げる途中で牛込御門前まで来た時、隼人が追って来たので、源八は隼人を討ち取ったという。源八らは幕府に自首すると、大老・井伊直澄は源八の態度を賞賛し、死罪を減じて伊豆大島に流したものの、延宝 6（1678）年に奥平源八は恩赦で流罪を解かれ、彦根藩・井伊家に仕官したそう。この「浄瑠璃坂の仇討ち」は火事装束など、30 年後の赤穂浪士の討ち入りに多大な影響を与えたとされている。→鼠坂→中根坂→十二騎町

④近藤勇・試衛館

天保 10 年（1839）、近藤勇の養父である天然理心流 3 代目近藤周助が創設した。文久元年（1861）、4 代目を勇（1834-1868）が継ぐが、勇の上洛により、佐藤彦五郎（1827-1902）と幕臣寺尾安次郎が留守を預かり、慶応 3 年（1867）まで存続した。

この道場には、既にのちの新選組の中核をなすメンバーが顔を連ねており、門弟として土方歳三、沖田総司、井上源三郎、山南敬助、食客として永倉新八、原田左之助、藤

堂平助、斎藤一（「浪士文久報国記事」による。ただし、斎藤については不明な点がある）などがいたとされる。→焼餅坂

⑤幸国寺

開基は加藤清正で、寛永7年によ開山。小湊誕生寺から奉安された「布引の祖師」と呼ばれる日蓮上人像は「江戸十祖師」のひとつに数えられ、悪病除けで信仰を集めた。山門は徳川御三卿田安家の屋敷門を移築したもので、風格を漂わせている。木々が茂る境内には新宿区指定天然記念物の大イチョウがある。

⑥法身寺

「鉄道唱歌」の作詞者として知られる詩人大和田建樹（1857～1910）は、ここ法身寺の庫裡で亡くなった。建樹は愛媛県に生まれ、広島外国語学校を卒業、その後、独学で国文学を研究し、のちに東京大学古典科の講師となった。新体詩の普及につとめ、詩集「詩人の春」「いさり火」を発表したほか、「新体詩学」などの啓蒙書も刊行した。また「明治唱歌」（明治二十一年）や「鉄道唱歌」（明治二十三年）などの唱歌の作詞も行い特に「鉄道書歌」は全国的に愛唱された。→浄栄寺→薬王寺坂→児玉坂

⑦月桂寺

豊臣秀吉が足利成氏の後を継がせた嫡女の月桂院が葬られて、それまで平安寺と称したが月桂寺と改称した。月桂院が所持していた安産宝珠が寺宝として伝わり、厄除け安産成就の寺として知られている。江戸時代には関東十刹のひとつに数えられ、境内には月桂院の墓のほかキリシタンの織部灯籠などがある。→フジテレビ跡→念仏坂

⑧安養寺

開基は慈覚大師円仁。天正19年（1591）徳川家康公築城の時、城内平川口より田安へ換地。その後天和3年（1683）4月現今の神楽坂に移る。本尊薬師如来は金銅仏の坐像で一丈六尺の堂々たる尊容をなし、日光・月光両菩薩、十二神将の御影と共にお祀りされています。→曙橋→新坂

⑨全勝寺

吉田松陰らに影響を与えた尊王思想家で経世家、儒学者でもある、山県大弼の墓がある。山県大弼は、享保10年（1725）に甲斐国（山梨県）竜王に稀、郷里の加賀美桜鴻、五味釜川らに和漢の書を学び、京都へ出て有職故実を修めた。二十七歳で江戸に出て四谷坂町に住み、同町の岩槻藩主大岡忠光の医臣となった。その後、八丁堀に私塾を開き、儒学・軍学などを講じた。尊王思想家として反対派により幕末に訴えられた。明和3年（1766）に捕らえられて翌年四十三歳で処刑された。これを明和事件という。大弼の没後百年で明治維新が成し遂げられた。墓は夫人の里方の菩提寺である全徳寺にあったが、廃寺となったためここに移された。

⑩西迎寺

紅葉山と号する。開山は西迎上人。開山西迎上人は室町時代、相州の三浦四郎義広の嫡男として生まれ、右馬義行といった。後に義行は太田道灌の父道真と父子の縁を結び

道灌の義兄として深交した。実父四郎義広が戦死し仇を報ずる前に仇敵が死ぬと、世の無常を悟り西迎と名を改め仏門に入った。文明十八年（1486）義弟太田道灌が謀殺されると延徳二年（1490）衆生済度と道灌の菩提を祀るため江戸城の紅葉山に寺を建て西迎寺と号した。江戸城拡張の時寛永十二年（1635）現在地に移転した。→善慶寺（梵鐘が有名）

⑪小泉八雲旧居跡(成女学園)

小泉八雲は本名をラフカディオ・ハーンといい、1850年にギリシャのレフカダ島で生まれたイギリス人です。明治23年に来日して松江（島根県）で教員として務め、小泉節子と結婚。同29年に日本に帰化しました。

同年、東京帝国大学（東京大学）で英語・英文学を講ずることになって上京。この地に、約5年間住みました。樹木の多い自証院一带の風景を好んだ八雲は、あたりの開発が進んで住宅が多くなると、西大久保に転居しました。新宿区指定史跡である石碑は、東京八雲同人会により八雲の生誕100年を記念して建てられました。碑面に刻まれた英文の筆跡は、イギリスの詩人エドモンド・ブランデン、日本語は市川三喜博士のものであります。

⑫自証院

寛永17年(1640年)、尾張藩主徳川光友の夫人・千代姫の母、自証院を供養するために創建された寺です。最初は日蓮宗「本理山自証寺」でしたが、天台宗に改宗されました。古くは桜の名所であったといわれます。

また、堂塔の用材に檜の節目が多いものを用いたため、「ふし寺」または「瘤寺(こぶでら)」とも呼ばれました。明治時代末期、この付近に住んでいた文学者・小泉八雲が自証院の風致を大変好みました。境内で杉の木を切り倒す音を聞いて、杉の木がかわいそうでしたとまれなくなって転居したという逸話も残されています。境内には、弘安6年(1283年)に造立された、区内最古の阿弥陀三尊種子板碑（新宿区指定文化財）などがある。

⑬西向天神

古くから東大久保村の鎮守社であり、大久保天満宮という。現在でも広い境内を持ち、椎の木などが森をなしている。菅原道真を祀った京都の北野天満宮を勧請したもの。西向天神社という名は、社殿が西方(京都)を向いていたからつけられたものである。他に棗(なつめ)天神という俗称もある。これは、寛永年間に、将軍家光が鷹狩りに来た際に、荒廃していた当社を見て、社殿等の修復のために金の棗の茶入れを下賜して再興を促した、という伝承によるもの。また、慶安から天和年間には、桜の名所であったことも書物に残されている。太田道灌の山吹の里伝説で知られる紅皿碑と富士塚ある。

⑭抜弁天

抜弁天は今ではもう地名のようになってしまったが、その昔は源義家が祈願した巖島神社があった。この近くを旧鎌倉街道が通っていたために源義家の伝説があるのだといわれ

る。境内が南北に通抜けでき、また苦難を切り抜くための弁天社、いわゆる抜弁天として庶民から信仰され、江戸六弁天、山の手七福神の一つに数えられた。

⑮大久保犬御用屋敷跡(説明のみ)

ここは、現在は新宿区区立余丁町小学校ですが、江戸時代、五代将軍徳川綱吉の「生類憐みの令」により元禄8年(1695年)に犬御用屋敷が設置された場所です。

徳川綱吉は、男子徳松の死後、世継ぎに恵まれず、これを前世の殺生によるもの信じました。そして、貞享4年(1687年)、「生類憐れみの令」を発したのです。これによって生物の殺生を固く禁じ、とくに綱吉が成年生まれであったため、犬を重視したといえます。そして、飼い主のいない犬を収容するため、四谷・大久保・中野に「犬御用屋敷」が設置されました。なかでも大久保の「犬御用屋敷」は、総面積2万3000坪という広さでした。元禄10年(1697年)に手狭になり閉鎖されました。→永福寺(新宿七福神)→久左衛門坂

⑯鬼王稻荷

古来より大久保村の聖地といわれた場所にたてられた稻荷神社と鬼王神社が天保2年に一緒になりました。病気時に豆腐を断って「撫で守り」で治す、という信仰が江戸時代から有名です。

⑰島崎藤村の旧居

小説家島崎藤村が、明治38年5月より翌39年9月までの時期に住んだところ。信州小諸で一家をなし、執筆生活を送っていた藤村は、明治38年5月、執筆中の小説『破戒』を完成させるため、家族を連れて困窮の生活に耐えながら専心に執筆し、ついに脱稿したのが、この西大久保の地である。極貧による栄養失調で三人の娘を失い、妻も目が見えなくなったこと。明治39年浅草新片町に転居した。

⑱小泉八雲終焉の地

小説家・随筆家小泉八雲(1850~1904)が晩年に居住し、亡くなった場所。明治29年(1896)9月、東京帝国大学講師に招かれ、松江から上京した八雲は、市谷富久町(現：成女学園)に居を構え、執筆活動を行った。しかし、周辺の喧騒を嫌い、明治35年この地へ転居した。執筆活動に加え、明治37年4月からは早稲田大学でも教鞭をとったが、同年9月26日、狭心症のため急逝した。

⑲コリアンタウン

新大久保がコリアタウン化したのは戦後の事で、それまで木賃宿が並ぶドヤ街だった新大久保界隈は戦後になり在日系企業であるロッテの工場が出来た事もあり、ロッテの工場に勤める在日韓国人や韓国からの出稼ぎ労働者が集住し始めたのが新大久保コリアタウンの素地であると言われている。

お帰りはJR新大久保駅です

歩くことと同じように歌うことも健康の素です。大きな声で歌いましょう！

《鉄道唱歌》

汽笛一声新橋を　はや我汽車は離れたり
愛宕の山に入りのこる　月を旅路の友として

右は高輪泉岳寺　四十七士の墓どころ
雪は消えても消えのこる　名は千載の後までも

窓より近く品川の　台場も見えて波白く
海のあなたにうすがすむ　山は上総か房州か

梅に名をえし大森を　すぐれば早も川崎の
大師河原は程ちかし　急げや電気の道すぐに

《母さんの歌》

母さんが　夜なべをして　手袋編んでくれた
木枯し吹いちゃ　冷たかろうと　せつせと　編んだだよ
ふるさとの　便りも届く　いろりの　においがした

母さんが　麻糸つむぐ　一日つむぐ
おとうは土間で　わら打ち仕事　おまえも　頑張れよ
ふるさとの冬は　さみしい　せめてラジオ　聴かせたい

母さんの　あかぎれいたい　生味噌を　すりこむ
根雪もとけりゃ　もうすぐ春だで　畑が待ってるよ
小川のせせらぎが　聞こえる　なつかしさが　しみとおる
なつかしさが　しみとおる